



## 目次

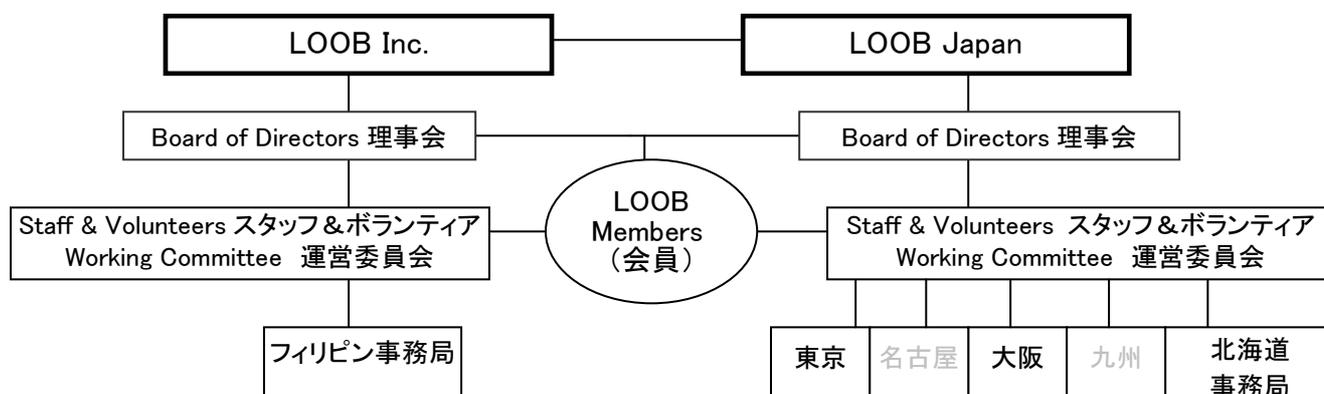
1. 概況経緯
2. 実施体制について
3. 事業に関する報告
  - ① 途上国における国際協力・国際交流・青少年育成プログラムの実施  
(A. ワークキャンプ、B. みどりの活動 C. ごみ投棄場支援)
  - ② 途上国の子ども達への教育・医療支援  
(A. 教育サポート、B. 医療サポート)
  - ③ 途上国の困難な状況にある地域・世帯への物資支援  
(A. 物資・衣類支援)
  - ④ 国際理解のための日本文化・海外文化の普及  
(A. 英語研修 B. 日本文化紹介)
  - ⑤ 国際協力および国際交流のための募金活動と広報の実施  
(A. 国際協力イベント、B. フェアトレード、C. 説明会・交流会、D. カレンダー)
  - ⑥ ニュースレターの発行
4. 助成金・受賞実績

## 1. 概況経緯

LOOB は今年で発足 10 周年。この間、たくさんの有志に支えられ、日本とフィリピンの文化的・教育的な人的交流、そして現地低所得者への地域開発や教育支援に力を入れてきました。東日本大震災は、現地での活動の意義や持続可能性を考える上で、私達にとってもターニングポイントとなるものでした。これからどうやって運営していくか？団体の一番の強みは？と考えたとき、それはフィリピン青年ボランティアを集め、動かすことができる組織力だと気が付いたのです。ボランティアは LOOB の財産であり、同時に貧困問題を解決していく上での重要な力となります。本報告書を通して、多くの方々に LOOB の 2011 年度の活動と成果を知って頂ければ幸いです。

## 2. 実施体制

### LOOB Organizational Chart (2011 年 12 月現在)



#### 【LOOB 日本事務局】

非専従スタッフ 小林千恵子 (LOOB JAPAN 監事、北海道)

専従スタッフ 小林幸恵 (LOOB JAPAN/LOOB Inc 理事、フィリピン)

理事&会員 (東京ブランチ 10 名、大阪ブランチ 10 数名で構成)

#### 【LOOB フィリピン事務局】

専従スタッフ JOHN LOOT (LOOB Inc. 理事)

専従スタッフ ROY TONDO (LOOB Inc. プログラムセクレタリー)

専従スタッフ DINAH ROSE ROJO (LOOB Inc. プログラムオフィサー)

専従スタッフ フィリピン人スタッフ 3 名

専従スタッフ 日本人ボランティアスタッフ 3 名

非専従スタッフ フィリピン人ボランティア約 25 名

### 3. 事業に関する報告

#### ① 途上国における地域協力・交流・青少年育成プログラムの実施

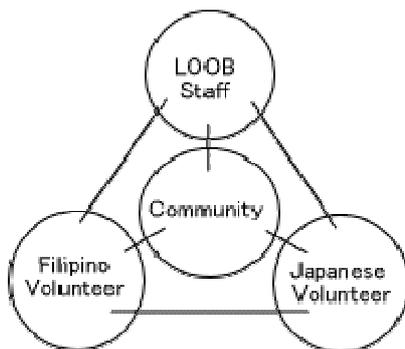
##### (A) ワークキャンプ事業

LOOBが毎年注力しているワークキャンプ事業は、ボランティアの参加者がフィリピンの一般家庭にホームステイしながら、現地青年ボランティアと共に問題を学び、ワーク作業で地域に貢献するプログラムです。2011年は、学生団体とのコラボ4回を含む計9回のキャンプを開催し、日本人約100人、フィリピン人50人、韓国人13人の約170名が現地の活動に参加しました。ワークキャンプの事業収入は、総収入の59%を占めます。団体理念の達成においても、財政面においても、LOOBの活動の重要な柱となっています。

<p><b>1. 学生団体MERRYワークキャンプ</b> 2011年2月21日～3月5日 大阪教育大学の学生を中心としたMERRYさんとのコラボキャンプで、教育分野の視察や小学校での授業など現地経験を積むためのアクティビティを実施した。 <a href="http://www.loobinc.com/WORKCAMP/tieup_merry.html">http://www.loobinc.com/WORKCAMP/tieup_merry.html</a></p>	
<p><b>2. 第41回日韓比マングローブ植林キャンプ(PJK4)</b> 2011年3月6日～3月13日 バロタックビエホ町ヌエバセビア村で開催する4回目のキャンプ。海洋資源の再生を目指すコミュニティで、村人とともに計7,535本のマングローブを植樹した。 <a href="http://www.loobinc.com/WORKCAMP/41pjk_rep.html">http://www.loobinc.com/WORKCAMP/41pjk_rep.html</a></p>	
<p><b>3. 第42回イロイロ市ワークキャンプ</b> 2011年3月19日～3月26日 ナバイス村小学校の水道施設を整備するワークを実施した。震災直後だったため、小学校やコミュニティで多くの人が集まり、日本の早期復興を祈った。 <a href="http://www.loobinc.com/WORKCAMP/42rep.html">http://www.loobinc.com/WORKCAMP/42rep.html</a></p>	
<p><b>4. 第43回無人島キッズキャンプ(第6回キッズキャンプ)</b> 2011年5月5日～5月7日 3つの地域から35名の子どもが集まり、日比のキャンプリーダー10名の下で野炊やチームビルディングを行い、美しい自然を愛する心と社会性を育んだ。 <a href="http://www.loobinc.com/WORKCAMP/43rep.html">http://www.loobinc.com/WORKCAMP/43rep.html</a></p>	
<p><b>5. 第44回日韓比ワークキャンプ(PJK5)</b> 2011年7月30日～8月8日 バロタックビエホ町での5回目のキャンプでは、計7,393本のマングローブを植樹したほか、トイレのない貧困世帯のため共同トイレを2箇所建設した。 <a href="http://www.loobinc.com/WORKCAMP/44pjk_rep.html">http://www.loobinc.com/WORKCAMP/44pjk_rep.html</a></p>	

<p><b>6. Exseed スタディツアー</b>          2011年7月30日～8月8日          ごみ問題との中で生きる人々に触れたり、緑化計画に沿ってマホガニーを植林。フェアトレード製品の製作体験や戦争体験者のくピースセミナーなどを実施した。  <a href="http://www.loobinc.com/WORKCAMP/tieup_exseed.html">http://www.loobinc.com/WORKCAMP/tieup_exseed.html</a></p>	
<p><b>7. 学生 NGO「ALPHA」学校建設プレキャンプ</b>          2011年8月25日～8月29日          次キャンプ候補地(3つ)を視察し、コミュニティや学校関係者への聞き取り調査などを実施。2008年からALPHAが建設してきた学校を訪問し、交流会も行った。  <a href="http://www.loobinc.com/WORKCAMP/tieup_alpha02.html">http://www.loobinc.com/WORKCAMP/tieup_alpha02.html</a></p>	
<p><b>8. 第 45 回ギマラス島エコワークキャンプ</b>          2011年8月25日～8月29日          海洋保護地区のために大規模な漁法が禁止され、エコツーリズムとしての発展を模索するギマラス島南部で、ボート組合が使う棧橋を建設した。  <a href="http://www.loobinc.com/WORKCAMP/45rep.html">http://www.loobinc.com/WORKCAMP/45rep.html</a></p>	
<p><b>9. 国際共働プロジェクト「ISAP02」キャンプ記録</b>          2011年9月9日～9月18日          滞在先コミュニティの小学校でトイレ用の雨水貯水槽を建設したほか、2つの小学校で授業を担当し、環境や食育に関して子ども達に啓蒙活動を行った。  <a href="http://www.loobinc.com/WORKCAMP/tieup_isap02.html">http://www.loobinc.com/WORKCAMP/tieup_isap02.html</a></p>	

### LOOB ワークキャンプの特徴



ワークキャンプでは上記のように、貧農村・貧漁村・都市貧困区の課題に取り組むだけでなく、ホームステイ、学校訪問、ワークショップ、リーダーシップトレーニング、チームビルディングなど、様々なアクティビティを通して、参加者が成長することを目指します。

多くの NGO で実施しているスタディツアーは、日本人が「知る」「体験する」ために用意された企画ですが、LOOB ではフィリピン人ボランティアと地域社会(コミュニティ)が相互協力します。

それは貧困問題を草の根レベルで解決していくには、フィリピン人のエンパワーメントが最も重要であると考えているからです。「一方的な支援でなく共に学ぶ」とはどういうことか？ 現地フィリピンに根ざしている NGO だからできる「ワークキャンプの形」があります。今後も LOOB では国際協力・国際交流と青少年育成が同時に達成できる同事業に注力していく予定です。



## (B) エコ&グリーン活動

急速な都市化の裏で自然環境の破壊が進むフィリピンですが、貧困撲滅への課題が大きく、環境保護への関心は国・市民レベルで低いのが現状です。LOOBではコミュニティでの植林活動を通して、環境保護の大切を伝える活動を行っています。

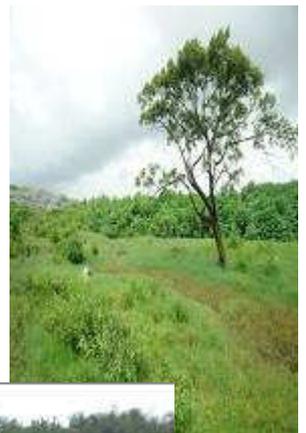
### 《マングローブの森を再生する》

- ▶ 海と森の生態系を持ち、二酸化炭素を大量に吸収するなど、自然界で重要なはたらきをしているマングローブ。しかしフィリピンでは人間の生活のため伐採され、100年の間に3分の1の12万ヘクタールに減少し、海洋資源の減少の原因になっている。LOOBは、2006年にギマラス島で発生した重油タンカー沈没事故をきっかけに、フィリピンの環境保全と住民の啓蒙を旨として、植林活動をスタート。2011年度はギマラス島ヌエババレンシアと、パナイ島バロタックビエホの2地域で計4回、17,128本の植樹を行った。2007年8月から通算12回で、累計植樹本数は105,235本となり、天然環境資源省(DENR)が目標とするマングローブ回復面積83,000ヘクタールのうち、約10ヘクタールを寄与した計算となる。



### 《ごみ山を緑の山に》

- ▶ イロイロ市廃棄場を管理するイロイロ市公共サービス局と協力して、2011年から悪臭防止と緑化のための植林を行っている。植えるのはも水分吸収力が高く、将来建材にもなるマホガニーなど。1980年代から30年余りのごみが蓄積する廃棄場では、当然だが掘っても掘っても地面の中はごみだらけ。しかし、表面に土をなじませ緑が生えれば、見た目は美化され、雨期には周辺コミュニティにまで広がっていた生ゴミの悪臭がかなり抑えられるようになった。2011年だけで、計3回250本の植樹を行った。



### (C) カラフナンごみ投棄場周辺住民支援事業

<http://www.loobinc.com/sm01.html>

5年目となるイロイロ市カラフナンごみ投棄場での活動です。プロ野球選手の岩隈久志選手やせっけんのLUSHの協力で2010年に完成したUCLAラーニングセンターで、裁縫プロジェクトの支援や子どもを夕方預かる「チャイルドマインディング」活動を行っています。このセンターは、住民に広く利用され、ごみ投棄場で働く人々にとって自立に向けたシンボリックな存在となっています。



(写真右) 2011年8月台風で洪水被害にあった家族。約12世帯がセンターで過ごした。

#### ➤ 《UCLA 裁縫部門》



UCLA 支援から約5年間。毎月の定期的な購入をベースとした技術指導により、2011年は裁縫メンバーの技術が安定したため、技術向上セミナーは開催せず、週に数回 LOOB スタッフが訪問して、発注業務や製作指導を行った。

(←)UCLA ラーニングセンター裁縫メンバーたち



【現在の課題】 LOOBからの注文に対して、UCLAメンバーの生産能力が追いつかない。また生産効率が改善されず、一つ製品を作るのに時間がかかるため、一人が手にする月の分配金が低く、これが若手メンバーの離脱率につながっている。次年度はこれらの課題をクリアするためのサポート業務を行っていく予定。

(←)LOOB が内装を手がけた UCLA ショールーム。

#### ➤ 《チャイルドマインディング》

LOOB では2010年10月から月水金の夕方の時間に、裁縫メンバーやごみ投棄場で働く人々の子どもを預かる託児所(=チャイルドマインディング活動)を開始した。子ども達が安全に、かつ学びのある時間を過ごすことができるよう、LOOB の現地青年ボランティアと日本人ボランティアスタッフが協力して、読み聞かせなどを行っている。約20~30人ほどケアしている。



## ② 子ども達への教育・医療支援

### (A) 子ども教育サポート <http://www.loobinc.com/edu01.html>

フィリピンの小学校就学率は 83% (西ビサヤ地方は 75%)、高校就学率は 59% (同 53%) しかなく、子どもの 6 割しか卒業できません。LOOB では教育サポート会員とチャリティイベントやカレンダー販売で **86 名** を支援しました。また教育省のパートナーとして以下を行いました。

#### ➤ 《学資援助》

- ギマラス島ヌエババレンシア町 (14名)
- パナイ島ナムコン村 (13名)
- イロイロ市カラフナン地区 (54名)
- その他の地域 (2名)
- 大学生 (3名) **合計86名支援**



#### ➤ 《子ども英語アクティビティ》

子ども達の英語力とアート表現力を引き上げるための青少年育成・野外活動を行っている。日本とフィリピンのボランティア達が 10 名前後集まり企画～実施～評価までのプロセスを行った。2011 年は約 40 回のアクティビティを実施。

- パナイ島ナムコン村(参加人数20人前後) ○イロイロ市カラフナン地区(60名前後)

#### ➤ 《学校給食とオーガニック菜園を通じた食育プロジェクト》

味の素 KK の助成事業。2010 年 4 月から 2 年間、無料学校給食や、教師や保護者への食育セミナー、オーガニック菜園、食堂改善などを通して、地域の食への意識化を目指している。栄養&歯磨き指導、調理セミナーなどに日本の学生団体のメンバーが多く参加し、子ども達にとってインパクトの高い授業を行うことができた。

(写真右) 栄養スナックを販売する食堂の開設式。  
地元メディアも取材に来た。



- 《ピアニカ教室》 2011 年クリスマスに向けて、Bakhaw 小学校で、現地日本人&フィリピン人ボランティアが週 1 回の音楽クラスを担当。クリスマス会でピアニカ演奏会が催された。

### (B) 子ども医療サポート <http://www.loobinc.com/med01.html>

#### ➤ 《竹の義足基金》

2011年は医療サポートの対象者はなし。LOOBで竹義足を希望する現地の子ども達に助成金を設定して募集していたが、該当者がいなかった。次年度も引き続き希望者を探していく予定。

### (3-3) 困難な状況にある地域・世帯への物資支援

#### (A) 物資・衣類寄贈 <http://loobinc.com/dn01.html>

- 日本の支援者から頂いた物資を、現地の必要な個人／組織に贈る活動であるが、東日本大震災の発生後、フィリピンで6回のチャリティイベントを行い、集まった募金・収益金255,542円を被災者の義援金として日本赤十字社に送らせて頂いた。(3-5-Aを参照)

### (3-4) 国際理解のための日本文化・海外文化の普及

#### (A) 英語研修

- フィリピン大学(UP)ビサヤのランゲージセンターと提携し、日本人の英語学習者に対して、英語研修やフィリピン文化への理解を深めるための交流プログラムを行った。

#### (B) 日本文化普及

- 日本文化の普及は、ワークキャンプ中に小学校と高校で行う日本文化の授業や、日本料理の紹介などを行った。また8月に現地ボランティアスタッフがフィリピン大学の大学生約100名に「日本人のボランティアリズム」についての講義を行ったほか、9月にウェストビサヤ大学のランゲージフェスティバルで日本料理を紹介する活動も行った。

### (3-5) 国際協力および国際交流のための募金活動と広報の実施

#### (A) 国際協力イベント&チャリティフリマ <http://loobinc.com/charity.html>

- 東日本大震災後に現地フィリピンで「BANGON JAPAN」というプロジェクトを開始し、日本の早期復興を願うフィリピンの人々の想いを一つにした。3月21日から3か月間で、約400名の方々が祈りのバナーに署名したほか、チャリティランや特別ミサなどにも多くの人々が参加した。日本で3回、フィリピンで6回のチャリティイベントを実施し、収益金(255,542円)は被災地支援で日本赤十字に寄贈した。
- メンバーの善意で、直接フィリピンの子どもの教育につながるよう、残りの収益(277,184円)は次年度の教育サポートに充てられる。



グローバルフェスタ東京(2011年)



大阪ワンワールドフェスタ(2011年)

## (B) フェアトレード

<http://www.loobinc.com/ft01.html>

- LOOBは毎月一定額をUCLAから仕入れることで、生産者の技術向上と現金収入の安定化を目指している。2011年は前年とほぼ同じ水準で45万円前後の取引額となった。ショップオーナー向けの割引制度をスタートし、フェアトレード・パートナーが増えた。

## (C) 説明会・交流会・広報活動

- 春・夏の現地プログラムの希望者に対し、東京、大阪を中心に計5回ほどの説明会を実施した。また、2011年5月14-15日と11月19-20日に静岡キャンプ(メンバー交流会)を開催し、国内の今後の活動(説明会、報告書作成、定例会など)について話し合った。

## (D) カレンダープロジェクト

<http://www.loobinc.com/calendar2011.html>

- 2011年度の2012 LOOB カレンダーは「Amazing Life in the Philippines」をテーマに、現地の子どもの視点でフィリピンの生活文化を紹介するスタイルで発売した。600部を完売し、315部しか売れなかったが、この収益で13名の子ども達の就学を支援することができる。

## (3-6) ニュースレターの発行

- 2011年1月と7月の2回、「LOOBニュースレター」発行。約200人の会員に配布するとともに、ホームページ上でもPDF版を無料配布した。

## 4. 助成金・受賞実績

- 味の素 KK AIN 国際協力プログラム 78 万円



2011年に私たちの活動を支えて下さった全ての方々に心より感謝申し上げます！

LOOBスタッフ & メンバー一同

